

4 無災害1, 000日の記録

大槌営林署 ○ 佐々木 正太郎
石山 信正

1 はじめに

大槌営林署は三陸海岸南側に位置し、釜石市、大槌町の一市一町の国有林1万9千ヘクタールを管理、経営をしている。

国有林は、北上山系特有の切り立った山々に囲まれ、厳しい自然条件下での作業を余儀なくされている。

職員は、平成5年1月1日現在定員内26名、基職8名の総勢34名で、基職は造林事業を主体に実行している。

2 課題をとり上げた背景

平成元年9月19日、収穫調査の実行中、ナタによる災害が発生した。

これは打極のため生立木の根際を剥皮しようとして、ナタを振り上げたところ、付近のツルに引っ掛り、手元が狂って左手に切創を負ったもので、休業8日の災害となった。当署では昭和60年1件、昭和61年1件と災害発生の際緯があることから、平成元年9月19日の災害を最後と決め、無災害1,000日を当面の目標として全職員が一丸となって安全対策に取り組むとともに、安全意識の高揚を図りながら、基本動作の遵守により努力した結果平成4年6月15日をもってこれを達成することが出来た。

この機会に1,000日の軌跡をたどり、検証することによって今後の安全対策の推進に役立つものと確信し「無災害1,000日の記録」を課題として取り上げた。

3 研究の方法及び経過

無災害1,000日達成に至るまでどのような安全対策を講じ、どのような安全活動を推進したのか、安全意識の高揚を図るために何をやったのか検証した。

(1) 安全衛生管理実施計画の策定と実施

現場を含めた全職員からの意見を反映させ、造林、収穫業務を主体とした大槌営林署の実態に合った計画としている。

また、計画に基づく各月毎の実施事項については完全実施を基本とし、翌月以降の安全対策に生かし、安全活動に反映された。

(2) 職員のアイデアによる安全対策

ア 熊災害防止のための風鈴の活用

熊の出没時期に合わせて作業箇所周辺に風鈴数個を木の枝に吊し、風による音によって熊を近づけない方策を講じた。これは熊が音に敏感だという習性を利用したもので、現段階までは一定の効果があるものと思われる。



(写真-1 風鈴の活用状況-イラスト)

イ 安全日誌の様式改正

現場で直接作業に従事する者にとって字を書くことは苦手である。そのためにヒヤリ・ハット等の記載が容易に出来るようマル印で標示する様式に改めた。

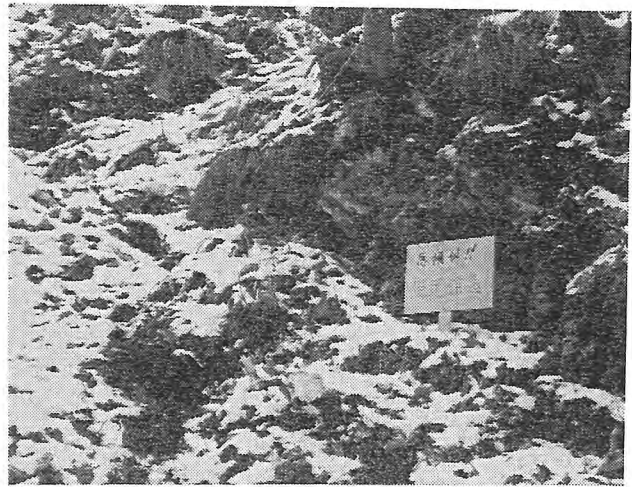
安 全 日 誌						森林事務所
年月日	年 月 日	曜日	天候	人員	名	
場 所	林班	小班	作 業 種	地拵・植付・下刈・つる切・除伐・間伐・歩道・収獲調査・林道		
			作 業 用 具	鉋・鋸・鎌・鍬		
森 林 官 からの 指 示 事 項				点 検 結 果 及 び 指 示 事 項		
				署 長 次 長 課 長 パトロール		
今日の仕事でヒヤリ・ハットしたこと。						有 無 (該当するものに○印を付ける。)
項 目	原 因		時 間	そ の 他		
転 倒	すべり・石・伐根・草・伐倒木・バランスくずれ・踏みはずし					
飛来落下	枯枝・切片・伐倒木・落石					
はね返り	ため柴・歩行中・埋れ枝条・小柴					
切 れ	手のすべり・刃物の動き・転倒・力余り・砥石はずれ・踏みつけ					
手元正しい	他の枝・他のつる・腐尻が体に・バランスくずれ					
突 き	枯枝・体の回転・バランスくずれ					
部 位	頭・眼・耳・鼻・口・首・肩・腕・手・胸・背・腹・腰・尻・腿・膝・踵・足					

(表-1 改正した安全日誌の様式)

ウ カラー спреー活用による注意喚起

作業箇所への歩道作設を事前に実施し、危険箇所へカラー спреーを吹き付けることにより歩行中の注意を喚起することとした。

また、歩道の数箇所に矢印標示をして作業箇所への道しるべとした。



(写真-2 スプレーによる道しるべ)

(3) 安全意識の高揚を図るために

ア 安全懇談会等では司会者の一方的発言にならないよう出来るだけ全員からの発言を求め、全員の意見を反映させた。

イ 救急模擬訓練では、無線連絡、電話連絡による通報が誰でも出来る体制づくりのため、全員が訓練に参画するとともに、担架の手造りを習得して、万一に備える条件が整った。



(写真-3 担架の手造りに挑戦)

ウ 安全大会で、無災害1,000日以上 of 森林事務所に署長表彰を実施し、今後500日単位で更に表彰することとした。

4 研究の結果

(1) 計画から実行, 反省まで全員参画のもと「守るべきは守る」「やってはいけないことは絶対やらない」等の基本動作が大事。

(2) 適切な安全対策を講じるために, 職員からの提言や, アイデアを採用し全員がこれを守ることが大事。

(3) ヒヤリ・ハットは災害予告である。徹底分析と次の安全作業へ活かすことが大事

(4) 安全対策, 安全活動推進のため全職員が同じ意識をもって取り組むため安全意識の高揚を図ることが大事。

以上のことが結果として考えられた。

5 考察

大槌営林署では無災害1,000日を達成することが出来た。反面この期間中蜂さされ災害等が5件発生しており, 今後行動災害と併せて無災害目標としなければならない

「安全に特効薬はない」「取り組みに終りはない」これらのことを肝に銘じ次の目標の2,000日へ向けての日々が続いている。